



デジタル技術の活用で、 卓球場を無人運営

鳥栖卓球センター

2017年12月に卓球場をオープンし、全国で活躍する選手の育成を中心に「卓球を活用したリハビリ」、地域の活性化も含めて様々な方が利用できる施設運営など、幅広い取り組みを行っている。指導した選手が日本全国へと活躍の幅を広げる一方で、監督として選手と共に遠征を行う機会が多くなり、遠征中は施設を閉めるなど、1人で運営することの難しさも感じていたという。効率的に施設の運営・経営をしていく為に、デジタル技術を活用した【施設運営の無人化】を目指した。

なぜDXに取り組んだのか

自分1人で運営する
難しさを実感

——本事業に参加した経緯——
昨年度からスマート化センターに相談をしながらDXの準備を進めていました。元々は、卓球の試合を組むことが出来るようなアプリ開発を検討していたのですが、現実的に1人で運営や管理をしていくことは厳しいと思います、まずは卓球場の運営を自分が居なくてもできるようにしたいと思ひ、事業の応募をしました。

DXの目的は？
やっぱり一人でやっているというところがあって、どうしてもDX、デジタルに頼らないと、限界があるというの、常々感じていました。自分の頭の中で、みなさんに迷惑かけているとこってどこかと言ったら、一人でやっているがゆえに外出してしまったり、お客さんに迷惑かけたり、自分の収益も下がるといふ、どっちも良くない状態があったので、DXはもう絶対という

のは思っていました。近年は、所属しているジュニア選手の実力も高くなってきていて、全国大会にもよく行くようになっていたんです。全国大会への参加などで佐賀県を離れて遠征に多くいくことになって、やっぱりだんだんとDXの必要性を感じ始めていました。昨年の初めからいろいろと、最初は自分で試行錯誤していたのですが、限界も感じていたんです。また、自分だけでは不安も多く、本当にやり方があっていいのか？もっと良い方法があるんじゃないか？導入しようとしていたツールはこれでいいのか？など選択や判断も難しかったので、外部に頼ることも重要と感じていたところでした。

——これまでの取り組み内容を教えてください。——
少し自分で調べて進めていたところもあったのですが、費用的な問題も含めて断念をしてしまいました。なので、無人化運営の構想だけで具体的な取り組みは何も行っていなかったです。



代表・監督
岡本 篤郎
おかもと あつろう

鳥栖市



【鳥栖卓球センター】 ■住所：〒841-0014 佐賀県鳥栖市桜町1205 ■従業員数：1名

■事業内容：卓球場運営管理、卓球指導、卓球用品販売

無人施設利用までの流れ

サイト内で利用登録

スケジュールで利用日時選択



スマートフォンによる開錠と施錠

【導入ツール】
SESAME 4



利用時間になると自動で開錠

※現在は試験運用の為、手動で運用中(2023年4月より自動化)



【導入ツール】
Nature Remo

開錠と同時に空調と証明がON

※現在は試験運用の為、手動で運用中(2023年4月より自動化)



【支払い方法】

①電子決済

②現金

→専用ポストに投函

※施設内は監視カメラ含めて施錠等セキュリティ対策も行っております。

――支援を通して良かった点、苦
労した点を教えてください。――
やりたい事を説明した上で、何
が足りない、何をしないといけない
というのを整理し、次のときま
でにやるべき事を提示頂くことで
課題を把握することができたのと
やるべき事の理解をしながら、進
める事が出来ました。一人だと、
やらないといけないのは分かって
いても、本当にこれでいいのか
なってしまう不安要素っていうのが
多い多くて、ある意味気持ちの面
でも助かりました。まずは、一番
の課題だったところが今回の支援
で解決できて、無人化運営の仕組
みもできたので、あとは、それを

どう活用していくかという、前向
きな方向で悩みが増えました。苦
労した点は、特に無かったのです
が、何を入れたら私が考えている
ことができるのかっていうのを知
る事が難しく、そこをこの事業
で相談する事で調べていただいた
り、アドバイスを頂きました。特
に空調ですが、自分で調べた30
0万くらいかかってしまっていた
のですが、伴走支援担当者に調べ
てもらって、結果として数千円で
解決する事ができたので、知識や
知恵、情報がとても助かりました
自分がやりたい事に対して、解決
策を様々な提示いただけたのは、本
当に良かったです。

――無人化運営で得られた効果を
教えてください。――
まず、利用者がた卓球をやった
という時にやらせてあげられる
という点があります。今までは逆
だったんですよ、行っても空い
てないよとか、前まで来て「なん
だよ今日空いてないのかよ」って
悪い印象を与えてしまっていたの
が、絶対できるっていうのに変
わって、安心感、信頼、信頼を得
れることですね。それに伴って、
今まで入ってこなかった収益が、
入ってくるっていうところです。
いろんな方に使っていただけなの
で、例えばジュニアの生徒なんか
でも夜は練習があるんですが、私

鳥栖卓球センターが思い描く未来とは？

――今後の展望――

がもし風邪などをひいてこれなく
ても、問題なく練習ができます。
実際に2月に体調を崩してしまっ
たのですが、一日も休ませること
なく運営ができたので、そこはも
うものすごく良かったかなと思っ
ています。

――今後の展望――

まずは、無人化の運営を軌道に
乗せたいです。その為には、新し
い利用者を増やす事、SNSを活
用して周知をして、収益を安定さ
せていきたいと思っています。安
定したら、余裕ができてと思うの
で、次はジュニアの生徒を増や
して行くということもやりたいと
思っています。生徒が増えてくれ
ば今度は新しいコーチにも来て
いただいて、そうすれば、ジュニア
の生徒も増えながら力をつけて
くと思うので、もっと、もっと、
大きなことを考えていきたいです
ね。例えば、実業団チームが佐賀
県内に出来ないかなと思っていま
す。そもそも日本卓球リーグには
加盟する実業団チームが九州には
なく、全国で戦える選手が育った
としても九州に戻ってくることは
出来ません。佐賀県内にチームが
出来れば佐賀県内で働けるが、佐
賀県の全卓球選手のレベルアップ
を図るという社会貢献ができます
成績を残させてあげるといのが
当初の目標でしたが、それはこの
5年間で、少しは出来たのかな
と思うので、その子供たちの将来
の活躍の場を用意してあげたいと
思っています。卓球を頑張れば大
学まで行けちゃうという前例は出
来たので、その次のステージの開
拓をしていきたいと思っています。
地元企業の方々からも賛同頂けた